



# 平成29年9月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成29年8月2日

上場会社名 株式会社 夢テクノロジー  
 コード番号 2458 URL <http://www.yume-tec.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役副社長  
 四半期報告書提出予定日 平成29年8月14日  
 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東

(氏名) 本山 佐一郎  
 (氏名) 金子 壮太郎

TEL 03-6420-3828

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成29年9月期第3四半期の業績(平成28年10月1日～平成29年6月30日)

### (1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年9月期第3四半期	5,332	25.9	171	△39.5	168	△47.7	110	△51.4
28年9月期第3四半期	4,236	21.0	283	△19.6	323	△12.5	227	4.4

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年9月期第3四半期	8.75	8.63
28年9月期第3四半期	19.71	19.69

当社は、平成29年4月25日を効力発生日として当社普通株式1株を2株に分割しておりますので、「1株当たり四半期純利益」「潜在株式調整後1株当たり四半期純利益」につきましては、当該分割が前事業年度の期首に行われたと仮定して算定しております。

### (2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	%	百万円	%	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年9月期第3四半期	3,809		2,644	69.3		204.36		
28年9月期	3,340		2,432	72.5		196.93		

(参考)自己資本 29年9月期第3四半期 2,641百万円 28年9月期 2,423百万円

当社は、平成29年4月25日を効力発生日として当社普通株式1株を2株に分割しておりますので、「1株当たり純資産」につきましては、当該分割が前事業年度の期首に行われたと仮定して算定しております。

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年9月期	—	20.00	—	20.00	40.00
29年9月期	—	20.00	—		
29年9月期(予想)				10.00	—

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

当社は、平成29年4月25日を効力発生日として当社普通株式1株を2株に分割しておりますので、平成28年9月期及び平成29年9月期第2四半期の配当額は株式分割前の配当金の額を記載しております。

## 3. 平成29年9月期の業績予想(平成28年10月1日～平成29年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	円 銭
通期	7,400	27.5	180	△58.4	180	△61.6	120	△70.4	9.28	

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

当社は、平成29年4月25日を効力発生日として当社普通株式1株を2株に分割しておりますので、業績予想における「1株当たり当期純利益」につきましては、当該分割を考慮した金額を記載しております。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	29年9月期3Q	12,925,200 株	28年9月期	12,305,200 株
② 期末自己株式数	29年9月期3Q	— 株	28年9月期	— 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	29年9月期3Q	12,638,900 株	28年9月期3Q	11,540,294 株

当社は、平成29年4月25日を効力発生日として当社普通株式1株を2株に分割しておりますので、「期末発行済株式数(自己株式を含む)」「期中平均株式数(四半期累計)」につきましては、当該分割が前事業年度の期首に行われたと仮定して算定しております。

※四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記に記載した予測数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、様々な要因によって大きく異なる可能性があります。上記の予測数値に関する事項につきましては添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	3
4. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
第3四半期累計期間	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(セグメント情報等)	6
(重要な後発事象)	6

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間における我が国経済は、雇用及び所得環境の改善による個人消費の持ち直しや輸出の回復、企業収益の改善を受け、緩やかな回復基調が続いております。しかし、北朝鮮を巡る軍事的緊張の高まりや、仏大統領選や米国政権を巡る不透明感など海外経済の動向に引き続き注視しなければならない状況にあります。

当社の顧客企業が属する自動車・電気機器・半導体などの製造業界におきましては、海外経済の回復により好調となった輸出などを背景に、素材・加工業種ともに改善傾向となりました。また情報系エンジニアの派遣先となるIT業界においても、企業収益の改善により設備投資が回復基調を強めており、インフラ整備や情報セキュリティ分野へのIT投資需要は引き続き高い水準となりました。またInternet of Things (IoT) や人工知能 (AI) をはじめとした先端的IT技術の研究開発への投資も拡大しております。いずれの業界も依然として人手不足は深刻化しており、エンジニアに対する需要は引き続き活況となりました。

このような事業環境の下、「新中期経営計画」に基づき、若手及び女性エンジニアの活躍が期待できる新たなマーケットの開拓を進めてまいりました。またIT関連需要の拡大を受け、製造業・IT業以外の企業への派遣も拡大しております。

採用市場に関しては、人材に関する引き合いの増加に伴い、供給不足の状況が継続しております。当社は、これまで進めてきました若手や女性、外国人エンジニアの積極採用に加え、需要の拡大するIT技術の習得に注力するIT育成エンジニアの採用強化も進めております。当第3四半期累計期間で採用人数は655名（前年同四半期362名）となり、その結果、平成29年6月末現在の在籍エンジニア数は1,559名（前年同月末1,091名）となっております。

また人材育成の強化を掲げ、主にIT技術を中心とした研修内容の充実を図りました。これまでハイクラスなITエンジニアの教育・育成を主な事業とする関連会社にて、当社エンジニアのIT研修を委託しておりましたが、積極的な採用により、研修対象者の大幅な増員を見込んでいるため、JavaプログラミングやCCNAをはじめとした実践的なIT研修を内製化いたしました。

当社は拡大する需要に対応するため、更にエンジニア数を増やし、会社の規模を拡大していくことが重要であると考えております。そのため当期は採用計画を見直しより積極的な採用を行っているため採用人数及び在籍エンジニア数の増加に伴う一時的な稼働率の減少や、求人費・教育研修費等の増加が見られます。

以上の結果、売上高5,332百万円（前年同四半期比25.9%増）、営業利益171百万円（前年同四半期比39.5%減）、経常利益168百万円（前年同四半期比47.7%減）、四半期純利益110百万円（前年同四半期比51.4%減）となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

当第3四半期会計期間末における総資産の残高は3,809百万円（前事業年度末は3,340百万円）となり469百万円増加いたしました。

#### (流動資産)

当第3四半期会計期間末における流動資産の残高は2,980百万円（前事業年度末は2,489百万円）となり490百万円増加いたしました。

主な要因は、受取手形及び売掛金の増加、現金及び預金の増加によるものであります。

#### (固定資産)

当第3四半期会計期間末における固定資産の残高は806百万円（前事業年度末は833百万円）となり27百万円減少いたしました。

主な要因は、建物の増加及び投資有価証券の減少によるものであります。

当第3四半期会計期間末における負債の残高は1,164百万円（前事業年度末は907百万円）となり257百万円増加いたしました。

#### (流動負債)

当第3四半期会計期間末における流動負債の残高は888百万円（前事業年度末は638百万円）となり249百万円増加いたしました。

主な要因は、短期借入金の増加、未払法人税及び賞与引当金の減少によるものであります。

#### (固定負債)

当第3四半期会計期間末における固定負債の残高は276百万円（前事業年度末は268百万円）となり7百万円増加いたしました。

主な要因は、退職給付引当金の増加、長期借入金の減少によるものであります。

(純資産)

当第3四半期会計期間末における純資産の残高は2,644百万円(前事業年度末は2,432百万円)となり212百万円増加いたしました。

主な要因は、新株予約権の行使による資本金及び資本剰余金増加、四半期純利益の計上による利益剰余金の増加、配当金の支払いによる減少、投資有価証券評価差額金によるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成29年9月期通期の業績につきましては、平成29年5月2日に公表いたしました内容に変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

4. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成28年9月30日)	当第3四半期会計期間 (平成29年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,406,645	1,760,715
受取手形及び売掛金	811,216	1,000,461
その他	271,711	219,294
貸倒引当金	△81	△101
流動資産合計	2,489,492	2,980,370
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	30,499	47,143
工具、器具及び備品(純額)	12,667	18,102
有形固定資産合計	43,166	65,246
無形固定資産	11,290	23,911
投資その他の資産		
投資有価証券	647,410	576,749
敷金及び保証金	52,958	57,261
その他	78,200	82,848
投資その他の資産合計	778,569	716,859
固定資産合計	833,026	806,017
繰延資産	17,706	23,050
資産合計	3,340,224	3,809,437
<b>負債の部</b>		
流動負債		
短期借入金	—	350,000
1年内返済予定の長期借入金	25,000	15,000
未払金	51,341	47,160
未払費用	160,309	186,109
未払法人税等	85,975	837
未払消費税等	121,381	120,453
賞与引当金	172,816	108,208
その他	21,829	60,860
流動負債合計	638,654	888,628
固定負債		
長期借入金	20,000	5,000
退職給付引当金	248,234	270,314
その他	712	712
固定負債合計	268,946	276,027
負債合計	907,600	1,164,655
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,101,487	1,267,072
資本剰余金	578,443	744,028
利益剰余金	790,592	649,225
株主資本合計	2,470,523	2,660,326
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△47,299	△18,914
評価・換算差額等合計	△47,299	△18,914
新株予約権	9,400	3,369
純資産合計	2,432,624	2,644,781
負債純資産合計	3,340,224	3,809,437

(2) 四半期損益計算書  
(第3四半期累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成27年10月1日 至平成28年6月30日)	当第3四半期累計期間 (自平成28年10月1日 至平成29年6月30日)
売上高	4,236,515	5,332,390
売上原価	3,167,832	4,026,970
売上総利益	1,068,683	1,305,420
販売費及び一般管理費	785,044	1,133,699
営業利益	283,638	171,721
営業外収益		
受取利息	155	7
投資有価証券売却益	4,974	6,963
投資事業組合運用益	44,233	—
その他	1,525	5,144
営業外収益合計	50,888	12,115
営業外費用		
支払利息	1,301	477
投資事業組合運用損	1,037	1,041
債権売却損	937	897
投資有価証券売却損	6,384	694
新株予約権発行費償却	—	7,826
株式交付費償却	—	3,986
その他	1,683	—
営業外費用合計	11,344	14,924
経常利益	323,182	168,911
特別利益		
新株予約権戻入益	—	980
特別利益合計	—	980
特別損失		
固定資産除却損	2,102	1,661
特別損失合計	2,102	1,661
税引前四半期純利益	321,080	168,231
法人税、住民税及び事業税	61,502	33,160
法人税等調整額	32,096	24,533
法人税等合計	93,598	57,694
四半期純利益	227,482	110,537

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第3四半期累計期間において、新株予約権の行使により資本金及び資本剰余金がそれぞれ165,584千円増加し、当第3四半期会計期間末において資本金が1,267,072千円、資本剰余金が744,028千円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期累計期間(自平成27年10月1日 至平成28年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		合計
	エンジニアアウトソーシング事業	N&Sソリューション事業	
売上高			
外部顧客への売上高	3,707,726	528,789	4,236,515
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—
計	3,707,726	528,789	4,236,515
セグメント利益	253,157	30,481	283,638

(注) セグメント利益の合計金額は四半期損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期累計期間(自平成28年10月1日 至平成29年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		合計
	エンジニアアウトソーシング事業	N&Sソリューション事業	
売上高			
外部顧客への売上高	4,481,696	850,693	5,332,390
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—
計	4,481,696	850,693	5,332,390
セグメント利益	147,846	23,874	171,721

(注) セグメント利益の合計金額は四半期損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。